

住みよい町づくり

仮称老人福祉センターを6億4千万円で建設

現在、緒立で土地区画整理事業が行われています。それに伴い、老人憩いの家黒崎荘を移転しなくてはなりません。そこで、より充実した施設にしようと6億4千万円の予算で仮称老人福祉センターを、現在の黒崎荘のすぐ南に建設します。鉄筋コンクリート平屋建て、建築面積は1650平方メートル。浴室2、集会室約200平方メートル、教養娯楽室6室のほか、リハビリのための機能回復訓練室も作られます。また、ねたきり老人が昼間ゆっくりできるようと特殊浴室を含むデイサービスセンターも併設。着工は夏ごろで来年三月末までに完成の予定です。

立仏小屋内体育館を増築。1100平方メートルに

小中学校の整備は将来の町をなう子供たちの教育のために、計画的に進められています。今年度は立仏小屋内体育館を増築します。将来の学校の規模と一般開放を考へての増築です。現在の面積は750平方メートルですが、350平方メートルを増築し、1100平方メートルにします。これにより、文部省の基準で不足していた304平方メートルが満たされます。同時に床や壁なども改造します。予算は8400万円。工事は7月下旬から始め、10月下旬ころ完成の予定です。手狭だった体育館が広がることで学校の授業などはもちろん、一般開放でも使いやすくなります。

1990
5
No.320

くまがさ

あなたと
町をつなぐ
広報

のために

平成2年度の
町の事業から

信濃川河川敷公園の整備に向け計画を見直し

山田・善久の信濃川河川敷に、昭和56年から河川敷公園の整備が進められてきました。当初の計画面積は約7万8千平方メートルでしたが、現在はテニスコート4面、ゲートポールコート5面のほか広場や駐車場などがあり、面積は約2万2千平方メートル。しかし県の観光物産センター（新潟ふるさと村）が運転免許試験場跡地に進出するのに合わせ河川敷にお花畑が作られるためにゲートポールコートが廃止されます。そこで町では河川敷公園の計画を見直します。予算は784万円。面積は約8万5千平方メートルと当初計画より約7千平方メートル増やしての見直しです。

家庭用生ゴミ処理器の購入に2分の1の補助

現在、当町の普通の家庭では一人一日当たり800gのゴミを出しています（5人家族で1日4kg）。そのうち約70%が可燃ゴミでその大部分が台所などからの生ゴミです。その生ゴミを家庭で処理できるとすると、大きなゴミの減量化につながります。そこで町では家庭用生ゴミ処理器の普及を図るため、購入費用の2分の1を助成する事業を今年度から開始します（当初予算は88万円）。30%の世帯で利用されるようになれば、ゴミ減量の効果が表に現れるだろうと、担当の保健衛生課。なお、処理された生ゴミは優良な堆肥として利用できます。

